

# 緩和ケアだより

松江市立病院 緩和ケア病棟広報誌

2023

vol.

35

 松江市立病院 緩和ケア病棟

題字デザイン：Katsuto Nagira

## 緩和ケア病棟の理念

緩和ケアとは、苦痛の緩和を必要とする悪性疾患の患者とその家族のQOL（人生と生活の質）を改善することです。

当院緩和ケア病棟では、患者やその家族の想いを可能な限り尊重し、その人らしい生活を送ることができるように、さまざまな専門家とボランティアがチームとして支えます。

## 基本方針

1. 痛みやその他の苦痛となる症状を緩和します。
2. 患者さんがその人らしく生きることができるように支えます。
3. 無理な延命や意図的に死を招くことはしません。
4. 病気の早い段階から適用し、積極的な治療に伴って生ずる苦痛にも専門性をもって対処します。
5. 患者さんの希望に沿い、在宅への支援を行ないます。
6. 患者さんの療養中から死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対処できるように支えます。



# CONTENTS

---

●岩下先生追悼	1
●職員紹介	5
●今回のミドコロ ～クリスマス～	6
●季節の行事	7

---



## 手紙 ～岩下先生へ～

緩和ケアセンター長

安部 睦美



2022年10月29日 岩下先生の旅立った日。

先生、今どこでどうしていますか？

スタッフステーションには相変わらず先生のペン立ておいてありますよ。まだ定位置に座っている先生がときどき私には見えます。多分、みんなにも見えていると思います。。。

昨年3月、「大学で検査する」って聞いて、でも先生がいなくなる日が来るとは全く思っていませんでした。今思うと、相当痛みを我慢していたのではないですか？

こっそり薬の処方を頼まれて、ロキソニンを出していたこと、大学での治療に向かうのも本当に気丈にふるまっていたのですね。今になって私の後悔です。もっと早く受診を進めればよかったと。

10月7日、大学病院の先生のお部屋に伺った時、布団にくるまったまま「早く、連れて帰って」といわれた言葉、忘れませんよ。

それから大学の救急車で緩和ケア病棟に来ましたね。いつものスタッフが心配そうな顔で迎えてくれた日のこと忘れません。その日から3週間、本当に病気と闘って、そして最後まで「緩和ケア医」でしたね。本当に素敵でしたよ。「このケアは最高」と言って話してくれた日、私は本当にうれしかったです。

そもそも、学生時代から「緩和ケア医」を目指していて、そうなるために麻酔科に入ったのですよね。2005年4月から市立病院の緩和ケア病棟と一緒に立ち上げるために赴任し、17年間、本当にありがとう。まだまだ先生のやりたい緩和ケアはたくさんあつただろうと思います。「志半ば」とは本当にこういうことをいうのですね。先生はどんな緩和ケア病棟にしたかったですか？常に「患者さん」目線でケアできる緩和ケア病棟を目指していたのではと思っています。残されたスタッフみんなで「これから」を考えていきたいと思っています。

「わすれられない贈り物」という絵本、久しぶりに手に取りました。「先生からの贈り物」それは「患者さん・ご家族中心の医療・ケアの充実のできる病棟」ですよね。イベントごとの先生の七変化は今もみんなの心の中に残り、写真を見るとふと笑顔にさせてくれます。まだまだ十分ではないですが、「患者さん・ご家族中心の医療・ケアの充実のできる病棟」を目指してこれからも緩和ケアをスタッフと共に提供していきたいと思っています。

あまり私は夢を見ないのですが、今年の初め、「まだ僕は死んでないよ、働きますよ」って言って夢に出てきてくれました。相当心配なのですかね…残した私たちのことが。

つい先日も、「まだこの辺に岩下先生いるよね」ってスタッフと話していました。なかなか先生も去りがたいですよね。もう少し7階西病棟にいてください。そしていつかは空の上から眺めることができるように頑張っていきますね。

先生、本当にありがとう。そしてまたいつか会いましょう。。。ね。





愛妻弁当  
食べながら



いつも本に  
囲まれていた先生



安部先生「キヤーっ」って  
言ってます



「近づかないで〜!!」



変なポーズは  
ずっと変わらない

2015年



2011クリスマス、  
初めての三人の共同作業(笑)



## 岩下先生を忍んで



最後にみんなで撮った  
記念写真。ハロウィン。

緩和ケア・  
ペインクリニック科医師

中右 礼子



7年前の夏、私が緩和ケアを学びたいと、安部先生、岩下先生のお二人にお会いした時に、静かに、いいですよと返事を下さりました。岩下先生と私は同い年で、私が大学時代を過ごした埼玉県、所沢市出身とお聞きして不思議な縁を感じました。

先生はいつも物静かで、どの患者様にも同じように声かけをされていたと思います。そして患者様やご家族が興味を持たれたところについては深く調べ、自分なりの意見を返しておられてとても尊敬していました。

昼休み、弁当を食べた後は必ず読書をされており、遠藤周作の深い河を読まれていた事がありました。私も読んでみたのですが、混沌とした世界において、すべてのものを包み込むガンジス河のほとりで大切な人の蘇りを求めるといったストーリーで、悲嘆を乗り越えるプロセスを考えるきっかけになりました。過去は確実に存在しており、魂はいつも私達を見守ってくれているという世界観を描いたもので非常に参考になりました。

治療が決まり、仕事の申し送りをしておられた間、なかなかお力になれず不甲斐ない思いがしました。ひな祭りの催しでは、武士の演出が素敵で、発案されたおじやる丸の文言は、今年も使わせて頂いています。和らぎカフェのネーミングなど言葉のセンスが抜群でした。これからもどうか、温かい目で見守っていて下さい。ありがとうございました。

## 同行二人



この時「ほんた」と  
あだ名がついた

飯南町立飯南病院 院長

角田 耕紀



2011年3月東日本大震災直後の4月、松江市立病院 緩和ケア・ペインクリニック科の一員として勤務させていただく機会に恵まれたのがはじまりで、あっという間に、岩下先生との付き合いも10年を越えていたのだと振り返る。先生とは出身大学は違うものの、2000年卒という共通点があったため、外来、病棟、緩和ケアチームにおける診療、ルール、電子カルテの使い方をはじめ、おやじギャグや仮装の極意など、親切丁寧に教えていただいた。プライベートでは、私の実家近くの海岸で、お互いの家族とともに海水浴やパーベキューを楽しんだことを思い出す。多分、先生の好きな趣味？の1位2位は『本』と『良いお酒』だと勝手に思っているのは私だけではないだろう。仕事終わりに、最寄りの本屋に立ち寄って、「読むペース以上に、欲しい本が沢山あって、買っちゃうものだから、読めてない本が、家にいっぱい積んである」って笑っていたし、飲み会でちょっと飲み足りないときは、野郎2人でオシャレなお店で洋酒談義をしながら『良いお酒』を飲んだこともあった。

そんな『本』と『酒』好きの岩下先生が、患者さんのメッセージに必ず添えていたのが『同行二人（どうぎょうにん）』という言葉だ。正直、聞いたことのない言葉であったが、見た目の文字から、なんとなく意味は推測できた。しかし、よく調べてみると奥深い気付きをくれた言葉であった。お遍路さんの仏教用語で、『弘法大師と私』という、常に空海さんが寄り添ってくださっているという基本的解釈がベースとなるようだ。その他、『支え合う人たちと私』という、人はひとりではない、人生を支えてくれる人々と共に歩むという考え方、また『私の中の私』という、弱い自分を制御しようとする自分を感じ、自らを見つめながら歩みを進めていくことなど、考え方や解釈は様々であろう。

岩下先生を偲び、彼から学んだメッセージに思いを馳せるとき、この言葉は患者さん、ご家族、関係スタッフ、私の心にいつまでも響き続け、それぞれの人生をより豊かなものにしてくれることだろう。



角田先生と相談中



ベッドから和田師長を見守る岩下先生

## 岩下先生へ

7西病棟師長  
和田 祥恵



岩下先生、どうしてですか？病棟のカンファレンス室の隅っこでおやじギャグ言ってるような気配を感じる時があります。きっとそばで見ているんだろうなーとふと思い出します。

私は2005年の新病院移転で緩和ケア病棟開設時に病棟のスタッフとして勤務しました。その時が先生との出会いになります。スタッフの時から数えると十年以上のお付き合いになりますね。旧病院では会ったこともなくて、一緒に働くようになって最初の頃はほとんど会話もなかったような記憶です。それがいつからか先生のおやじギャグに突っ込みを入れる係になり…。岩下先生はいろいろな姿があり、緩和ケアチームで回診するときは、本当にまじめで少しも面白いところがなく（先生ごめんなさい）ほかの病棟の看護師さんからなかなか話しかけづらい存在でした。でもそんな二面性を持った先生。根は本当にまじめで、ナイーブだなーと覚えることがたくさんありました。カンファレンスの前の休憩時間は必ず読書をしていましたね。先生の本棚の書籍にはどれもびっちり赤線が引いてあって。いま岩下文庫として私たちの資料や勉強のためとして使用させてもらってます。先生が時々私たちに伝えてくれた緩和ケアの知識、新しく異動になったスタッフへのサービス期間は3ヶ月で限定的でしたが、毎日の臨床で先生から問われる事が実践に結びついてたんだなあーって今になって思います。いまは先生のようにしつこく（これまたごめんなさい）オピオイドの種類や受容体の事、この痛みは何の痛み？なんて聞く事無いですもん。そんな先生がいなくなって…って言うかまだまだそんな感じがしないのは私だけでしょうか？

先生が私たちの緩和ケア病棟を療養場所を選んでくれて、一緒に頑張ったことはみんなの心の中に刻まれています。先生、私たちの病棟を選んでくれてありがとう。先生が選んでくれたことを誇りに思ってこれからも、みんなで頑張りすぎず、頑張ります！どこかで見守ってください。

お雛様(岩下先生)と  
お内裏様(和田師長)

いつもこのコンビ(笑)



看護師さんと病室で。  
ハロウィン。

俺は何者？

緩和ケア病棟

STAFF INTRODUCTION

# 職員紹介

緩和ケア病棟のスタッフは、症状緩和、その人らしさを大切にした日常生活の援助、家族のサポートなどに努めています。

また、患者さん、ご家族の希望を把握し、環境を整え、多職種間での調整役をしています。このコーナーでは松江市立病院の緩和ケア病棟の新しいスタッフを紹介します。



看護師  
八澤 祐香



看護師  
川上 典子



看護師  
角田 優子



看護師  
石原 美樹



看護助手  
澤田 洋子



看護助手  
黒崎 ミハル



今回の  
ミドコロ

# クリスマス

令和4年12月22日 クリスマス会を行いました。クリスマス用のマスクをMSWの来海さんが提供してくれました！ 患者さんもスタッフも大喜びでした！ コロナにまけるなー！

「きゃー！トナカイが！」いやいや、リハビリの坂本君です(笑)



「師長さん、今度は雪だるまかね」



うまいうまい！



みんな楽しそう！



お部屋にもお邪魔しました！



なんと可愛げなサンタさんだねえ



なんの集団でしょう



ボランティアさんからのクリスマスプレゼント



おいしそうなおやつの数々



イエーイ！大成功！



はやりの狐ダンス みんなで踊りました♪



来てくださって有難うございました



ギター演奏、見事でした！



今年のサンタとツリーですね

月見会

令和4年9月8日

月見会が行われました。コロナも少しずつ落ち着き、ようやくゲストの方をお招きすることができました。いつもは新春コンサートにお越しいただいているお箏の先生方と尺八の先生を久しぶりにお招きすることができました。



良い演奏を聞かせていただきました！



やっぱり箏と尺八の音色は最高ですね



おいしいコーヒーとおいしいお団子♪



着物の先生方と一緒に♪

節分

令和5年2月3日

岩下先生が毎年やってくれていた鬼、中右先生が引き継ぎました！そしてこの日看護師長の和田さんが忙しく、代わりにリハビリの坂本さんが師長の衣装を借りて鬼になってくれました！コロナも逃げ出してしまいますね！



リハビリの坂本くん、鬼に変身中



鬼は中右先生です！



コロナ追い払えたかな！



福の神になっていただきました



お部屋でも撒いていただきました～



桃の節句

令和5年3月9日

ハンサムなお内裏様とかわいらしいお雛様と…桃の木ですかね。



ハンサムなお内裏様とかわいらしいお雛様と…桃？



恒例の雛段飾り～



安部先生も歌います！



桃がひしもちとひな祭りのうんちくしゃべってます



お部屋にも桃の花が届きました



ポップを使って面白く撮りましょ～♪

## 編集後記

岩下先生。いかがお過ごしでしょうか。

私も安部先生の真似をして、この場をお借りしてお手紙書きます。

先生と初めて出会ったのは、旧市立病院の2階南病棟でしたね。先生は全然覚えてなかったけど、その時初めて私に声をかけてくれましたが、その内容はひどくて、「ねえ、身長何センチ？」でしたね。私は本気でカチンと来て、「喧嘩売ってます？」とまじめに答えたのになぜか先生は嬉しそうで、その後もしつこく「ねえ、それで何センチ？」と聞いてきましたね。あれは本当に腹が立ちました（笑）。

新病院になってからは緩和ケア病棟ですっと一緒に、仲良くもしていただきましたが、しょっちゅう喧嘩もしていたように思います。私の事を「戦友」と言ってくれて、よく愚痴も言い合っていましたね。

よく「ハゲ」って言っていじわるしてごめんなさい。ハゲてないですよぜんぜん。あと、陰で「めがねざる」って笑ってごめんなさい。ちょっとサルっぽく写真に写っていただけです。

最期に病棟で療養している時、沢山涙を流しながら、「もっとこうすればよかった」ってたくさん言ってましたね。その後悔、みんなで引き継いで患者さんに返していくので安心してください。

あと、たまには姿みせてください。まだその辺にいるんでしょ？  
うちらが見えてないだけなのかな。

それではまた。「ばいびー」。

西 紫

編集  
委員会

編集長：中右 礼子  
編集・校正：中右 礼子、安部 睦美、和田 祥恵  
編集・写真：西 紫

令和5年5月 発行

松江市立病院 緩和ケア病棟

〒690-8509 島根県松江市乃白町32-1

TEL：0852-60-8000（代表）／FAX：0852-60-8005（総務）



松江市立病院  
MATSUE CITY HOSPITAL